

2009年5月26日

HSBC プレミア、第2回マス富裕層の投資意識調査結果を発表

～ マス富裕層、景気回復長期化を懸念しつつも旺盛な投資意欲 ～

ロンドンに本拠をおく世界有数の金融・銀行グループである HSBC は、HSBC プレミアがサービスを提供するマス富裕層を対象として「現在の金融状況下における意識の変化、資産状況の変化、投資運用への興味・関心」をテーマに4月中旬に実施した調査結果を発表しました。

この調査は、HSBC プレミアが2009年4月16日から2日間にわたって、一都三県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）の30代から60代の男女832人を金融資産額により、マス富裕層（金融資産1,000万円以上の個人）とマス層（金融資産1,000万円未満の個人）に分け、現在の金融状況下における意識や資産状況の変化、投資運用への興味・関心等について把握するために実施しました。

今回の調査では、景気回復時期については、3年以上先を見越した回答が最も多かった一方で、資産運用を行うタイミングとしては今が一番良いという見方が大勢を占めるという、興味深い結果が得られました。

この他、今回の調査から読み取れる主な点は以下の通りです。

1. 30代並びに40代のマス富裕層の男性は、8割以上が資産運用に対して意欲を示している。
2. 投資・運用意向のある商品は「国内株式」と「定期預金」が上位2位。
3. マス層と比較し、マス富裕層は新興国投資（「株式投資信託（新興国）」、「海外株式（新興国）」）への関心が高い。
4. 直近1年での金融資産の増減に関しては、マス富裕層の約3分の2が減少したと回答。
5. 米ドル/円の為替相場について今後現状よりも円安に推移すると見るマス富裕層の割合は、円高を予想するマス富裕層を3倍近く上回っている。

次頁に続く

調査結果の概要

投資意欲の旺盛なマス富裕層

マス富裕層の 76%、マス層の 51%が今後の資産運用に前向きな意向を示した。また、資産運用を行うタイミングとしては、2009 年第 2 四半期の今現在が良いという意見が最も多く聞かれた。性別および年代別に見ると、マス富裕層の中でも若年層ほど、また女性より男性の方が、今後の投資意欲が高い。特に 30 代並びに 40 代の男性は、8 割以上が資産運用に対して意欲を示している。

マス富裕層は「新興国」、マス層は「FX」に相対的に高い関心

投資意欲のある商品は、マス富裕層、マス層どちらも「国内株式」「定期預貯金」が 50%前後で上位 2 位を占める。またマス富裕層は「株式投資信託（新興国）」「海外株式（新興国）」、マス層は「FX」への意欲が相対的に高い傾向が見られる。

性別および年代別に見ると、株式や株式投資信託への投資は女性より男性の方が積極的で、女性は男性に比べ「国債（日本）」や「金」への意欲が高めである。また、「FX」は年齢が上がるにつれ、投資意欲が低くなる。

金融資産の減少を経験したマス富裕層

直近 1 年での金融資産の増減に関しては、マス富裕層の 67.1%、マス層の 55.0%が減少したと回答。金融資産を減少させた理由として、マス富裕層の 77.4%、マス層の 39.3%が株式の売却損と評価損を理由としている。また、マス富裕層の 17.6%、マス層の 53.3%は生活費や所用のための金融資産の取り崩しをあげており、金融危機によるマス層への影響を示す結果となった。

その一方で、この 1 年間に金融資産が増加したと回答したマス富裕層は 10.1%であり、昨年 12 月に実施した第 1 回 マス富裕層調査と比較し、9 ポイントの上昇となった。増加理由は、「預貯金からの利子所得」（マス富裕層の 59.5%）のほか、「株式の売却益」（同 19.0%）、「外貨預金の利息」（同 16.7%）、「外貨預金の為替差益」（同 16.7%）などが挙がる。

次頁に続く

2009 年の円相場は現状よりも下落を予想

マス富裕層の 37.3%、マス層の 31.0%が、2009 年年末までの円相場の状況は、現状よりも下落していくと予想しており、これに対し上昇を想定している割合はマス富裕層の 14.7%、マス層の 10.1%にとどまっている。

また 2009 年の円相場の安値予想に関しては、マス富裕層の 19.7%、マス層の 16.6%が 12 月を予想し、12 月に円相場が安値を付けると回答した予想平均値は、対米ドルでマス富裕層が 105.51 円、マス層が 104.97 円となった。

日本株は現状よりも上昇すると予想

日本株についても同様に予測をしてもらったところ、マス富裕層の 43.3%、マス層の 29.3%が、2009 年年末までの日本株市場の状況は、現状よりも上昇していくと予想している。これに対し下落を予想している割合はマス富裕層の 13.0%、マス層の 15.1%にとどまっている。

また 2009 年の日本株の高値予想に関しては、マス富裕層の 21.6%、マス層の 13.5%が 12 月を予想し、12 月に日経平均が高値を付けると回答した予想平均値は、マス富裕層が 10,258 円、マス層が 10,092 円となった。

今回の調査では、景気の回復時期について予想してもらったところ、マス富裕層、マス層共に 3 年以上先を見越した回答が最も多かった。

当行は、HSBC プレミアの対象であるマス富裕層のお客様の意識やニーズを把握するための多角的な調査を、今後も定期的実施してまいります。

HSBC 調査レポートの詳細については、添付資料をご参照下さい。

HSBC プレミア、第 2 回 マス富裕層の投資意識調査結果を発表/4

HSBC グループ

HSBC グループの持株会社である HSBC ホールディングス plc は英国に本部を置いています。HSBC グループは世界で 1 億の顧客に対してサービスを提供しております。HSBC グループは、ヨーロッパ、アジア太平洋地域、アメリカ大陸、中東、アフリカにまたがる 86 の国と地域に 9,500 を超える拠点を擁し、2008 年 12 月末現在 2 兆 5,270 億米ドルの総資産を持つ世界有数の金融グループです。

日本における香港上海銀行

HSBC グループの母体行である香港上海銀行(本店・香港)は、日本で 140 年以上営業を続けており、事実上、日本で最も長い歴史を持つ銀行です。現在、東京と大阪に支店を展開しています。法人向けの金融業務、プライベートバンク業務や HSBC プレミアなどの個人向け金融業務を提供しています。

HSBC プレミア

HSBC グループの個人向け金融業務で、成長が著しいマス富裕層にグローバルな個人向けウェルス マネジメント・サービスを提供しています。2000 年にサービスを開始し、2007 年 5 月には、サービス内容などを一新したインターナショナル・サービスを開始しました。すでに、世界の 42 の国と地域で 300 以上の HSBC プレミアセンター（店舗）が設置されており、260 万人以上の顧客にサービスを提供しています。世界中どこにいても自国にいるような感覚で利用できる銀行サービスであり、日本では、お預り資産残高が 1,000 万円以上のマス富裕層のお客様のための専門銀行サービスとして、クオリティーの高い個人向けウェルス マネジメント・サービスを提供します。日本では、2008 年 1 月にサービスを開始しました。これまでに赤坂、銀座、広尾、丸の内、横浜、池袋、神戸に HSBC プレミアセンターが開設されており、日本全国の HSBC プレミアセンターの支店網は 7 店舗です。

以上

第2回 マス富裕層 投資意識調査

～現在の金融状況下における、マス富裕層の
投資意識、資産状況の変化について～

2009.05

HSBC  PREMIER

調査概要

■ 調査目的 : 保有金融資産が1,000万円以上の〈マス富裕層〉と、1,000万円未満の〈マス層〉について
現在の金融商品の保有・運用状況や、今後の予想並びに投資意向を明らかにするとともに、
金融全般についての彼らの考え方を把握する。

■ 調査対象 : 30代-60代の男女
※金融資産の保有状況により1000万円以上を〈マス富裕層〉、それ以下を〈マス層〉として、
比較するため、右下の表のように一定数を確保した。

■ 調査地域 : 1都3県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)

■ 調査方法 : インターネット調査

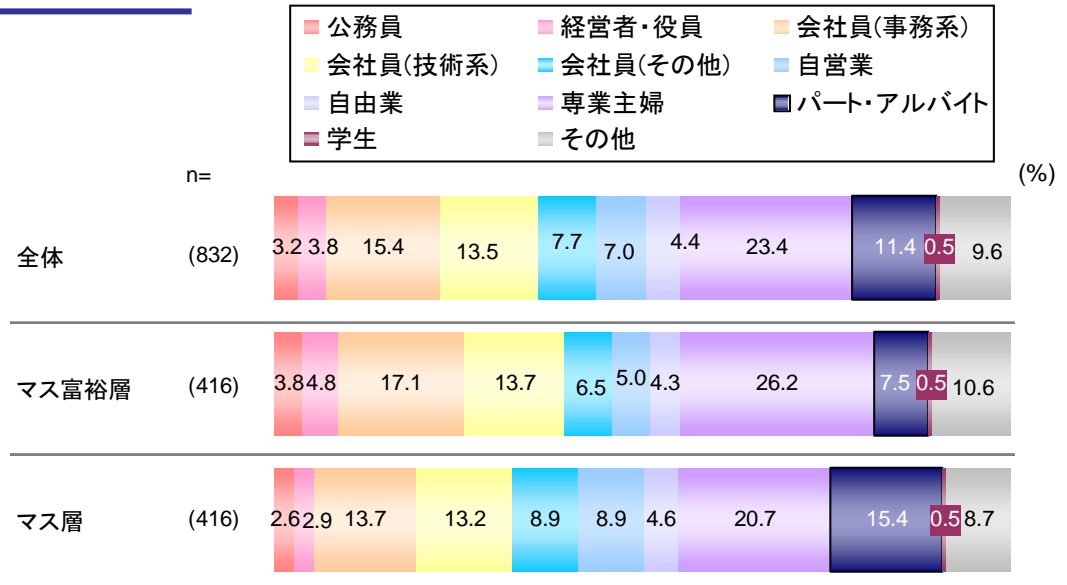
■ 調査時期 : 2009年4月16日(木)～4月17日(金)

■ 有効回答数 : 832サンプル

対象者		N	%
1	マス富裕層_男性_30-39才	52	6.3
2	マス富裕層_男性_40-49才	52	6.3
3	マス富裕層_男性_50-59才	52	6.3
4	マス富裕層_男性_60-69才	52	6.3
5	マス富裕層_女性_30-39才	52	6.3
6	マス富裕層_女性_40-49才	52	6.3
7	マス富裕層_女性_50-59才	52	6.3
8	マス富裕層_女性_60-69才	52	6.3
9	マス層_男性_30-39才	52	6.3
10	マス層_男性_40-49才	52	6.3
11	マス層_男性_50-59才	52	6.3
12	マス層_男性_60-69才	52	6.3
13	マス層_女性_30-39才	52	6.3
14	マス層_女性_40-49才	52	6.3
15	マス層_女性_50-59才	52	6.3
16	マス層_女性_60-69才	52	6.3
全体		832	100.0

回答者のプロフィール n=832

職業



居住地



調査結果の要約

HSBC  PREMIER

調査結果の要約

まとめ <再掲>

景気の回復時期については、3年以上先を見越した回答が最も多かった一方で、資産運用を行うタイミングとしては今が一番良いという見方が大勢を占めていた。

その他、今回の調査から読み取れる、主なポイントは以下の通り。

1. 30代並びに40代のマス富裕層の男性は、8割以上が資産運用に対して意欲を示している。
2. 投資・運用意向のある商品は「国内株式」と「定期預金」が上位2位。
3. マス層と比較しマス富裕層は、新興国投資（「株式投資信託（新興国）」、「海外株式（新興国）」）への関心が高い。
4. 直近1年での金融資産の増減に関しては、マス富裕層の約3分の2が減少したと回答。
5. 米ドル/円の為替相場については、今後現状よりも円安に推移すると見るマス富裕層の割合は、円高を予想するマス富裕層を3倍近く上回っている。

調査結果の要約

1

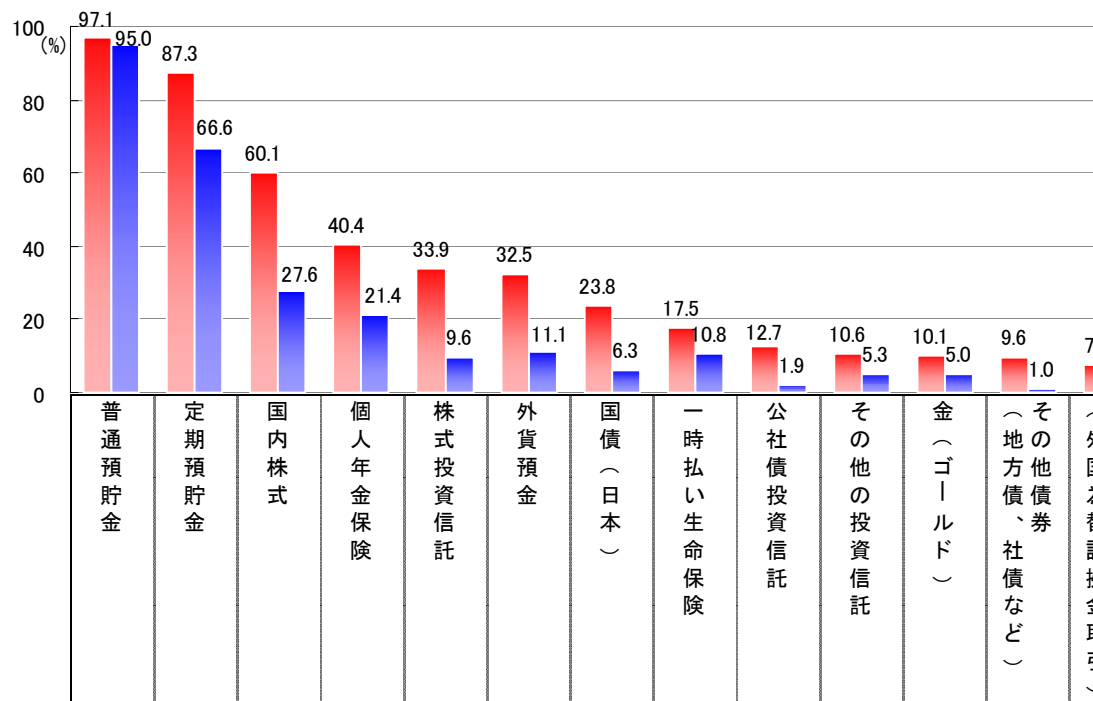
保有金融資産

- ・マス富裕層・マス層どちらも「預貯金」がメイン
- ・マス富裕層の男性は女性より「国内株式」の保有率が高い

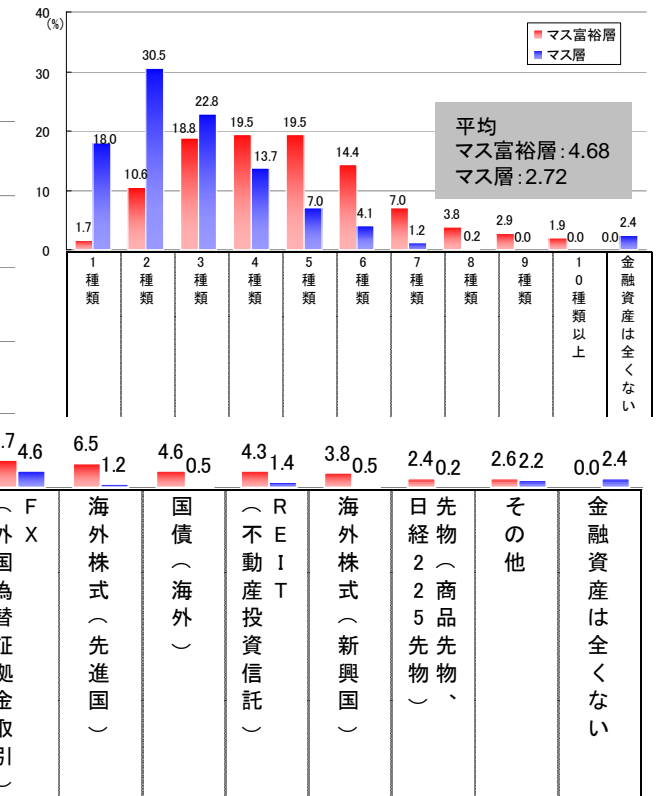
□現在の保有金融資産は、マス富裕層・マス層どちらも「普通預貯金」が95%以上でトップ。次いで、「定期預貯金」「国内株式」。性年代別では、マス富裕層の男性は女性より「国内株式」の保有率が高い。

□保有している金融資産種類の平均数は、マス富裕層で4.7種類、マス層で2.7種類であり、マス富裕層の方が多い。

■保有金融資産(全員が回答)



■保有金融資産種類 ※下の複数回答の個数をカウント



調査結果の要約

2

運用状況

・この1年間で金融資産は減った人が圧倒的、増えた人は10%以下

・「増えた」と回答した場合の増加幅は10%未満が最多で、増加理由は「預貯金の利息」「株式の売却益」「外貨預金の利息・為替差益」が上位

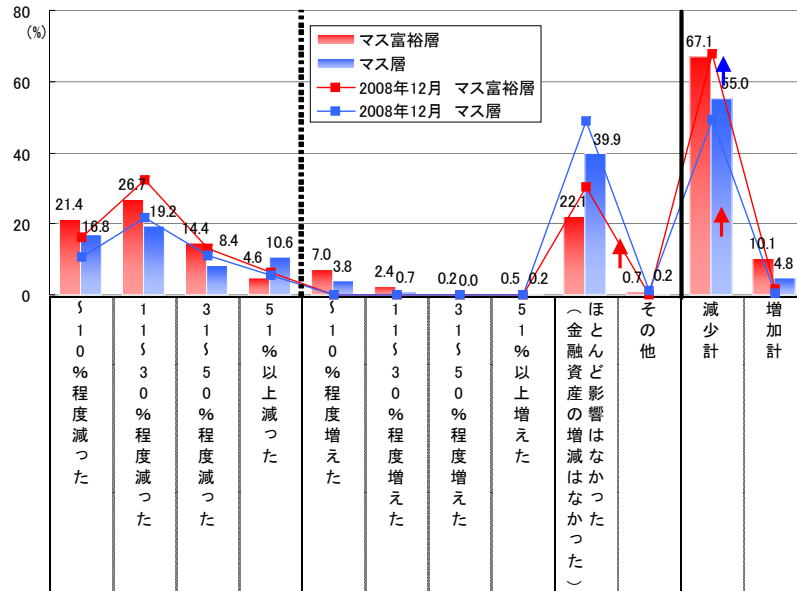
□この1年間で金融資産は減った人が、**マス富裕層で67%、マス層で55%**を占める。増加はどちらも10%以下。特にマス富裕層の男性は女性より減少した人が多い。

□2008年12月実施の第1回マス富裕層調査と比べると、マス富裕層で増加者が増えたのに対し、マス層では減少者が増えた。

□増加理由は、マス富裕層は「**預貯金の利息**」「**株式の売却益**」「**外貨預金の利息**」「**外貨預金の為替差益**」で、マス層は「**預貯金の利息**」がメイン。

□減少理由としては、マス富裕層が「**保有している株価の下落**」など、運用商品の時価変動による理由なのに対し、マス層は「**生活費に充てたり、所要のために預貯金を切り崩した**」という**必要に迫られた消極理由**なのが対照的。

■1年前と比較した金融資産増減(全員が回答)



■増加理由と減少理由(それぞれ増加者/減少者が回答)

増加理由	マス富裕層	マス層
預けておいた預貯金から利息を得た	59.5	55.0
株式の売却により売却益を得た	19.0	5.0
外貨預金で利息を得た	16.7	5.0
外貨預金で為替差益を得た	16.7	0.0
債券の利金(利息)を得た	9.5	0.0
金の売却で利益を得た、(売却はしていないが)		
保有している金の価格が上昇した	9.5	10.0
n=	42	20

減少理由	マス富裕層	マス層
(まだ売却はしていないが)保有している株式の株価が下落した	57.7	26.2
(まだ売却はしていないが)保有している投資信託の価格が下落した	38.0	13.1
外貨預金で為替差損が発生した	24.0	11.8
株式の売却により売却損が生じた	19.7	13.1
生活費に充てたり、所用のために預貯金を切り崩した	17.6	53.3
債券価格が下落した	10.4	3.5
n=	279	229

※10%以上掲載、n=30未満は参考

調査結果の要約

3

金融取引

- ・2008年以降に購入(預け入れ)したマス富裕層は70%となり、「定期預貯金」がトップ
- ・売却(引き出し)はどちらの層も40%未満で、「普通預貯金」「国内株式」「定期預金」が上位
- ・売買を行わなかった人の理由は、マス富裕層は市場の状況を鑑み、取引を行うタイミングを待っていたのに対し、マス層は資金不足やそもそも興味がないことを挙げている。

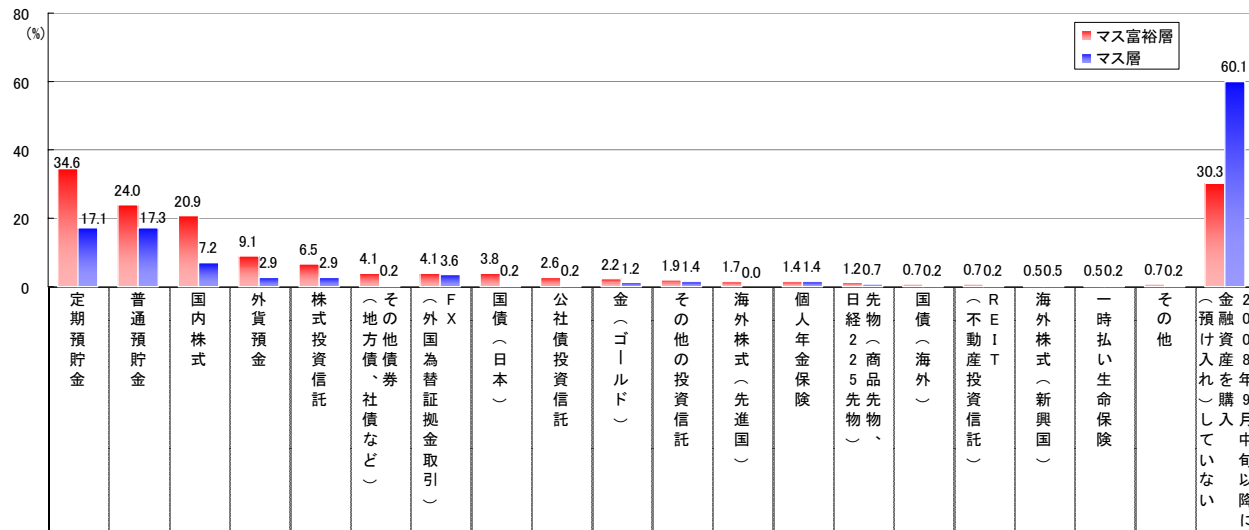
□2008年9月(リーマンショック)以降の金融資産の購入(預け入れ)は、マス富裕層の70%が購入(預け入れ)をしているのに対し、マス層は40%にとどまる。

□購入(預け入れ)商品は、どちらの層も「定期預貯金」「普通預貯金」「国内株式」が上位。特にマス富裕層の男性は「国内株式」の購入率、女性は「定期預貯金」の預け入れ率が他方に比べ高い。

□売却(引き出し)は、どちらの層も40%未満の人しか行っていない。内容は「普通預貯金」「国内株式」「定期預貯金」が上位。

□金融取引を全くしなかった人の理由は、マス富裕層が「市場価格が下がっていて、売却損が出るため」(40%)など取引の損得を考えた内容が上位に挙がるのに対し、マス層は「そもそも金融資産の売買自体に興味がない/金融取引をしないため」(39%)、「取引するだけの資金がなかったため」(28%)などが上位で、マス層が金融取引に消極的な様子が見える。

■2008年9月(リーマンショック)以降の購入(預け入れ)状況(全員が回答)



調査結果の要約

4 金融機関との取引状況

- ・2008年9月(リーマンショック)以降に口座開設をした人はマス富裕層20%、マス層15%程度
- ・口座開設した金融機関の数は「1社」がほとんどで、「銀行・信託銀行」がトップ
- ・「銀行・信託銀行」の利用状況は、マス富裕層の約半数が資産運用で実際に利用しているのに対し、マス層の95%以上が、資産運用には利用していない。

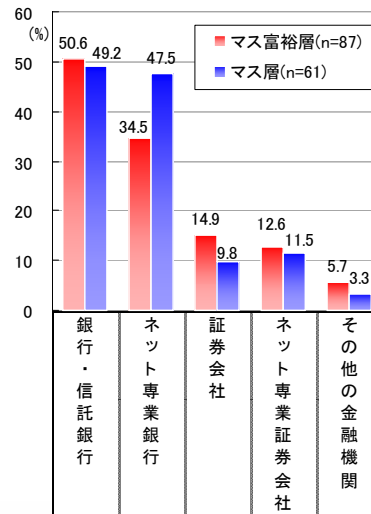
- 2008年9月中旬(リーマンショック)以降の金融機関で口座を新規に開設した人は、**マス富裕層で20%、マス層で15%程度。**
- 開設した金融機関数はどちらの層も「**1社**」がほとんど。相手先は、「**銀行・信託銀行**」(マス富裕層51%、マス層49%)がトップ。
- 口座開設の理由は、マス富裕層が「**高金利の定期預金が提供されていたため**」(マス富裕層37%、マス層13%)という資産運用の理由がトップであるのに対し、マス層では「**その口座を利用して振込や払込、自動引き落としなどをする必要があったため**」(マス富裕層17%、マス層43%)という必要上の理由がトップで、対照的。
- 口座開設者に対して、「**銀行・信託銀行**」での取引状況をたずねたところ、**マス富裕層で約半数が「資産運用(投資)を行っている」と答えたのに対し、マス層では資産運用を行っている人はわずか3%。**

■2008年9月中旬以降の口座開設状況

(全員が回答)

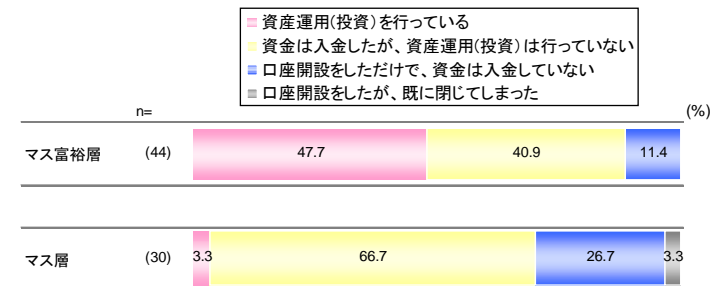
	n=	1社	2社	3社	4社	5社以上	2008年9月中旬以降に金融機関で新規に口座は開設していない
マス富裕層	(416)	14.7	4.1	0.7	0.2	1.2	79.1
マス層	(416)	10.1	3.1	0.7			85.3

■2008年9月中旬以降に口座開設した金融機関(口座開設者が回答)



■開設した「銀行・信託銀行」での取引状況

(銀行・信託銀行口座開設者が回答)



調査結果の要約

5

今後の資産運用意向とタイミング

- ・資産運用の意向はマス富裕層で76%、マス層で51%
- ・運用したい内容としては「国内株式」「定期預貯金」が圧倒的に多く、女性は男性より保守的
- ・タイミングはマス富裕層・マス層どちらも直近の「2009年4～6月」が最多

□今後の資産運用に対する意向は、**マス富裕層で76%**(「積極的に資産運用していきたい」18%、「積極的にではないが、資産運用はしていきたい」59%)、**マス層で51%**(前者8%、後43%)。特に30-40代のマス富裕層の男性では8割強が資産運用に意欲的。

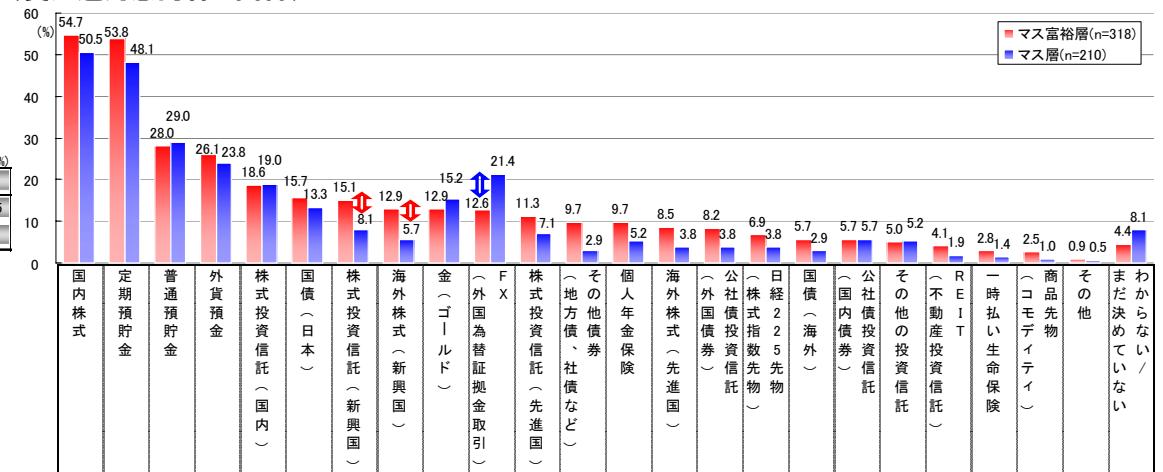
□運用意向のある商品としては、マス富裕層・マス層どちらの層も「**国内株式**」「**定期預金**」が圧倒的に多い。相対的に見て、マス富裕層が「**株式投資信託(新興国)**」や「**海外株式(新興国)**」に関心が高いのに対し、マス層は「**FX(外国為替証拠金取引)**」に対して、より高い意欲を見せている。

□性年代別では、株式や株式投資信託への投資意向は男性がより積極的で、女性は「**国債(日本)**」や「**金**」への意欲が高め。

■今後の資産運用に対する意向
(資産運用意向者が回答)

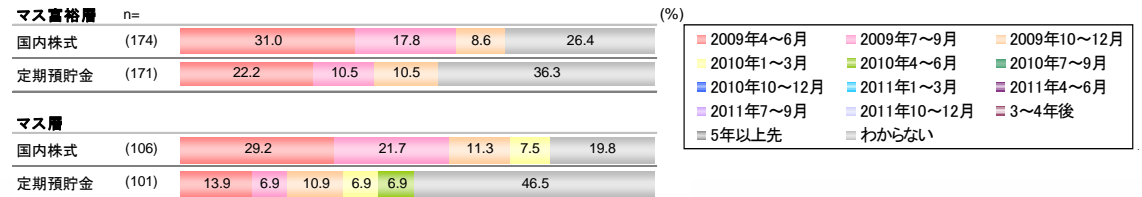
マス富裕層 マス層別	nF	意向			
		積極的に資産運用していきたい	積極的にではないが、資産運用はしていきたい	資産運用は考えていない	わからない
全体	(832)	12.6	50.8	26.3	10.2
マス富裕層	(416)	17.8	58.7	16.1	7.5
マス層	(416)	7.5	43.0	36.5	13.0

■今後の資産運用に対する意向
(資産運用意向者が回答)



■資産運用によいと思うタイミング(資産運用意向者が回答)

□資産運用意向のある人に、今後資産運用にいいと思うタイミングをたずねたところ、「**国内株式**」「**定期預貯金**」どちらも「**2009年4月～6月**」と直近時期が多い。



調査結果の要約

6

景気・為替・株式相場予想

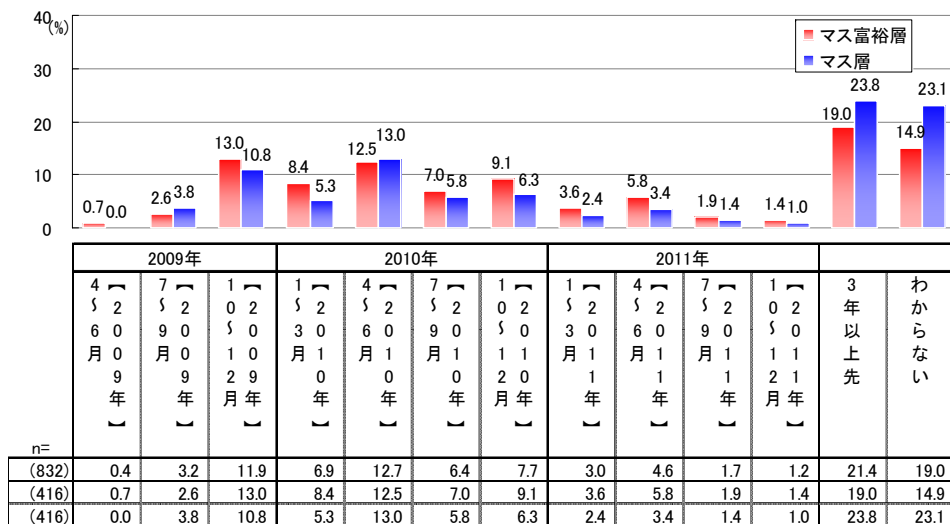
- ・今後の景気回復は3年以上の見込みが最多。2011年末迄では、今秋あるいは来春を予想
- ・為替は円安・ボックス相場が拮抗
- ・株価はマス富裕層は上昇、マス層はボックス相場・上昇が拮抗

□今後、景気が回復すると思う時期をたずねたところ、**3年以上先**と見込む人が最も多い。2011年までの時期では、マス富裕層、マス富裕層どちらも「2009年10～12月」「2010年4～6月」が上位。**今秋あるいは来春ごろとの予測**を持っている様子。

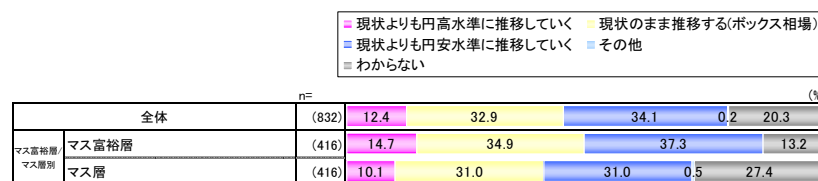
□今年中の米ドル-円の為替相場の推移を予想してもらったところ、マス富裕層・マス層どちらも「**円安**」「**ボックス相場**」が同程度で並んだ。⇒時期、最高値・最安値は次ページに掲載

□同様に、今年中の日経平均株価の推移を予想してもらったところ、**マス富裕層では「上昇」(43%)**が最も多いのに対し、**マス層では「ボックス相場」と「上昇」**が拮抗。⇒時期、最高値・最安値は次ページに掲載

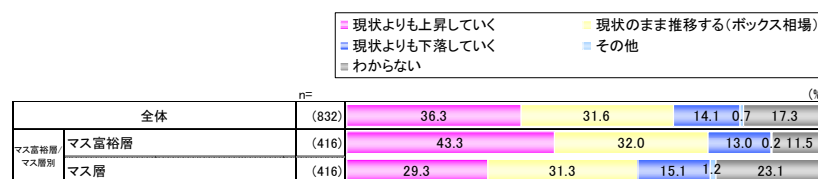
■景気回復時期予想(全員が回答)



■円-ドル為替相場予想(全員が回答)



■日経平均株価予想(全員が回答)



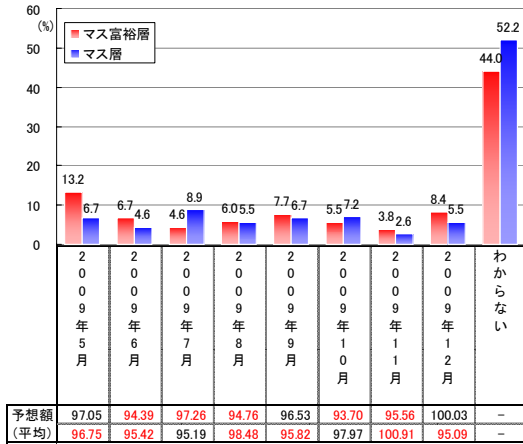
調査結果の要約

7

為替・株式相場
最高値・最安値

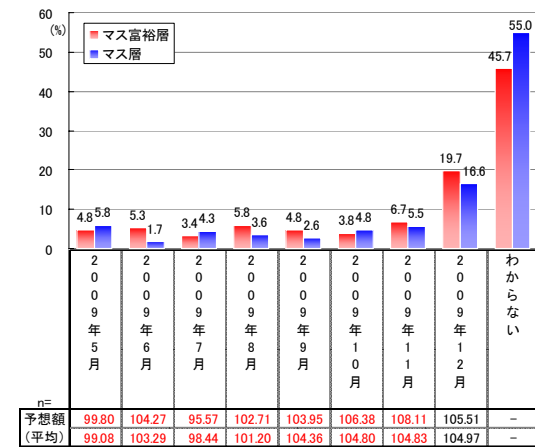
- ・マス富裕層は、為替相場の最高値の時期については「2009年5月」を予想、最安値は「2009年12月」で105.51円を予想
- ・同様にマス富裕層は、日経平均の最高値のタイミングについては「2009年12月」を予想し、予想平均値は10,258円。最安値の時期は「2009年5月」

■円-ドル為替相場予想 最高値の時期と価格(全員が回答)

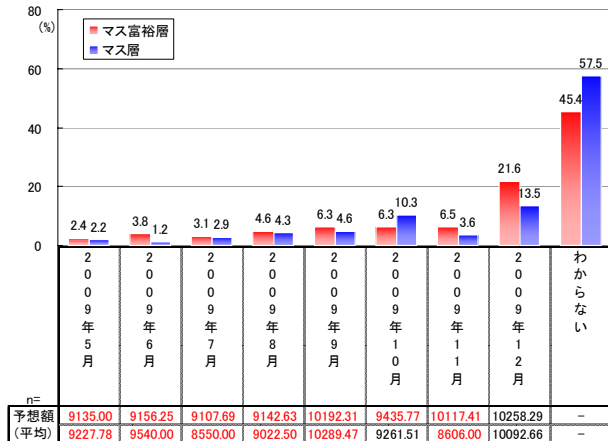


※予想額は
上段がマス富裕層
下段がマス層

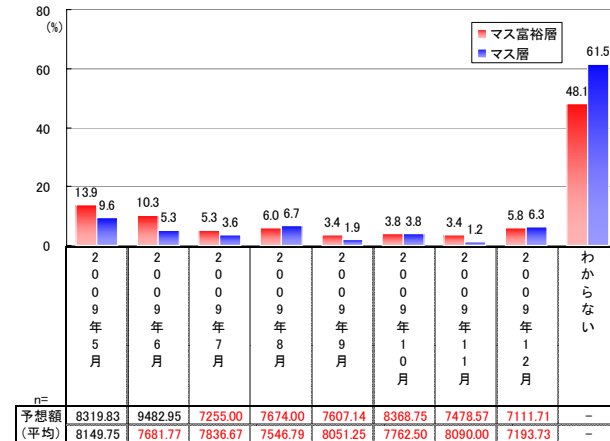
■円-ドル為替相場予想 最安値の時期と価格(全員が回答)



■日経平均株価予想 最高値の時期と価格(全員が回答)



■日経平均株価予想 最安値の時期と価格(全員が回答)



(※赤字はn数30未満のため参考値)